

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでも どこでも 誰にでも

ぬくもり

2012. 11
vol. 29
秋号

地方独立行政法人静岡県立病院機構
静岡県立こころの医療センター

特集内容

- 司法病棟1年が経過して
- 新任医師紹介
- 精神科ドクターコラム

県内精神医療の中核病院として

当院は、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や在宅医療支援に取り組み、ここ数年で大きな変革を遂げ、また、経営形態も平成21年度から独立行政法人に移行しました。

独立行政法人に移行後は、医療又は経営に関し学識経験のある方による評価委員会が設置され、当院も各年度終了後に評価委員会による業務実績の評価を受けています。今年8月に開催された平成24年度第1回評価委員会において、当院は、「精神科救急・急性期医療の提供や、在宅医療の強化拡充、先端医療・司法精神医療など、県内の他の医療機関では対応困難な総合的かつ高水準な医療を提供している。」との高い評価をいただきました。

多様化する精神科医療へのニーズに応えられるよう、今後も引き続き前向きな姿勢で取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いいたします。



事務部長 堀井 正人

司法病棟 1年が経過して

梶塚 正誠

司法病棟が本格稼働して丸一年が経過しました。司法病棟は触法行為を行った患者さんを対象としていることもあり、医療刑務所の病院版のようなイメージを少なからず持っていました。特にセキュリティーの面で従来の病棟とは大きく違い、病棟の出入りは厳重で、さらに職員はあらゆるリスクを考え、緊急時の対策も万全にしています。普段はリラックスして療養できるように、のんびりとした空気が流れていますが、しばしば緊急時を想定した訓練が行われ、そんな時には病棟にも緊張感が漂います。

しかし、司法病棟には他にない素晴らしい特色もあります。多職種による医療チーム（MDT）もその一つです。MDTは医師、看護師、心理士、薬剤師、作業療法士、精神保健福祉士が協力し、多角的に治療や社会復帰へのサポートを行うことを目的としたものです。私も医師としてチームの一員となり、診療に当りました。受け持った患者さんの人数は決して多くはありませんが、それでも従来の診療にはなかった沢山のことを経験しています。診察や投薬だけでなく、MDTで患者さんの自宅を訪問して実際の生活環境を調査したり、関係機関と連絡を取り合って環境調整を図ったりと、これまで以上に深く関わることができたという充実感も得られました。

司法病棟を立ち上げるに至っては、基礎になる医療観察法という法律からして従来とは違うため、試行錯誤を繰り返し、様々な努力と苦労があったと聞いています。開棟後一年が経ちましたが、今でも其々の患者さんに合った医療を提供出来るように定期的なミーティングが開かれ、さらに進化するための研鑽が続けられています。

精神科疾患勉強会を開催しました

精神科疾患への理解を深めるため、当センター大会議室にて、全6回の勉強会を開催しました。勉強会は医師からの講義形式で行われ、当センター職員のみではなく一般の方の参加も受け付けました。

～今年度の勉強会内容～

- 第1回：統合失調症（6月18日開催）
- 第2回：気分障害（7月5日開催）
- 第3回：神経症・摂食障害（8月17日開催）
- 第4回：リハビリ・心理教育（9月19日開催）
- 第5回：認知症（10月11日開催）
- 第6回：精神科薬物療法（11月26日開催）



今年度の勉強会は全6回で終了しましたが、来年度も実施予定です。一般の方、学生の方の参加も受け付ける予定ですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

来年度の開催日程については未定です。日程が決まりましたら、随時ホームページに掲載いたします。



～ 新任医師紹介 ～

Dr. 高橋 健二

皆様、こんにちは。10月1日より、静岡県立こころの医療センターにて勤務することとなりました、高橋健二と申します。

医師としては8年目になるのですが、これまで半分以上の期間は病院の医師としてではなく、基礎研究者として脳の研究に従事しておりました。具体的には、脳の中でも記憶と関わりが深いとされる、「海馬」と呼ばれる部分の機能解明を中心に研究を行ってきました。

精神疾患の中には、記憶や認知機能が低下する疾患も多く存在します。そのような疾患に対し、実際の診療現場において、研究職時代の経験も生かせるよう頑張りたいと思います。

また、静岡市での勤務も研修医だった頃以来、数年ぶりとなります。久々の臨床復帰となりますが、温かい目で見守って頂きますよう、宜しくお願い致します。



精神科 Dr.column

第7回

『非定型うつ病について』

Dr. 伊藤 沙枝子

最近よく聞かれるようになった「非定型うつ病」についてお話したいと思います。

従来のうつ病では気分が塞ぐ、何事も楽しくない、やる気が出ない、眠れない、食欲がないといった症状が一日中続きます。しかし、非定型うつ病の場合、いつもは落ち込んで元気も出ないが楽しいことがあると一時的に気分が晴れるという、出来事によって気分が変わるのが特徴です。また、眠り過ぎる、食べ過ぎる、体が重い、イライラしやすいなど従来のうつ病とは違う症状がみられます。

非定型うつ病は比較的若い女性に多く、他人から嫌われるのを恐れて自分の意見を言えない人がなりやすいと言われます。仕事には出られないのに飲み会や買い物には出かけられる…こういったことから性格や甘えのせいと思われる場合もあります。しかし、元々真面目で今まで勉強や仕事をきちんとこなしてきた人が最近になって塞ぎこみ生活に支障をきたすようになったら症状ではないかと考えられます。

治療は抗うつ薬を中心とした薬物療法ですが、それと同時に考え方の癖を見直す認知行動療法や自己表現の仕方を学ぶなどの心理療法を併用するのが効果的と言われています。また、生活のリズムを崩さないため仕事や家事などを出来る限り行い、目的を持って一日を過ごすようにします。周囲の人は本人のつらさを受け止めつつ適度な励ましでやる気を引き出すように接するのがよいとされます。

「精神科救急情報ダイヤル」のご案内

「精神科救急情報ダイヤル」は、24時間・365日精神科救急に関する情報提供及び相談に対応するダイヤルです。

◇精神科医療機関に緊急で受診したいとき、当番病院を案内します。

*精神科救急医療機関の当番病院については午後5時から翌朝8時30分までの対応になります。

◇精神科救急時の対応について相談に応じます。

◇静岡県内の精神科医療機関の案内をします。

◇精神科専門スタッフが対応します。

*かかりつけ病院がある場合は、まずかかりつけ病院に御相談ください。

下記電話番号までご連絡ください。

電話番号 **054-253-9905**



診療のご案内

一般外来

外来受付 午前8時30分～午前11時（予約制）
 診療日 月曜日から金曜日まで
 休診日 土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始
 診療科 精神科
 その他当センターを利用する方々の為の
 内科・外科・歯科外来があります。

専門外来

老年期こころと物忘れ外来 <60歳以上の方>
 老年期のこころの悩みや物忘れなど、老年期特有のこころの専門外来です。

◆一般外来・専門外来とも、全て予約制となっています。予めお電話でご予約下さい。

予約受付日：月曜日～金曜日

（祝祭日を除く）

予約受付時間：午前9時～午後4時

受付先：よろず相談スタッフ

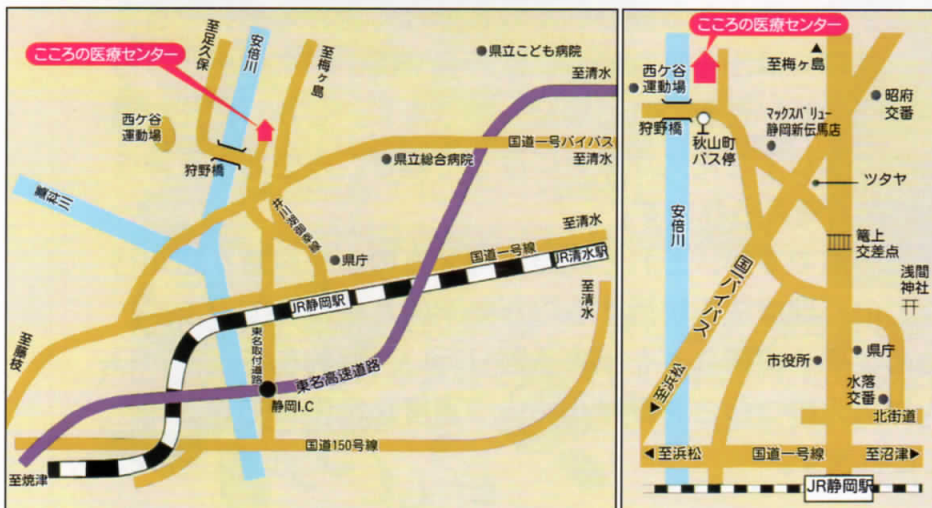
電話：054(271)1166

◆現在、他の医療機関に通院されている方は紹介状をお持ちください。

外来担当表

診察室	月	火	水	木	金
第1	小倉	村上直	渡邊	村上直	小出
第2	伊藤	五條	伊藤	鈴木	鈴木
第3	阿部	大橋	阿部	大橋	五條
第4	救急	救急	救急	救急	救急
第5	新患	新患		新患	新患
第6	梶塚	梶塚	村上牧	高橋	村上牧
第7	高橋	櫻井	仲田	仲田	櫻井

病院周辺図及び交通のご案内



交通のご案内

バス/美和大谷線 静岡駅より約25分
 （静岡駅前9番のりば 美和、足久保団地方面行き秋山町下車、徒歩5分）

くるま/静岡駅より約15分

地方独立行政法人 静岡県立病院機構
静岡県立こころの医療センター

（財）日本医療機能評価機構認定病院

〒420-0949 静岡市葵区与一4丁目1-1

電話：054-271-1135（代表）

FAX：054-251-6584

URL：<http://www.shizuoka-pho.jp/kokoro/>